

「万葉人の学びと表現 一人々はよく勉強していました」 佐藤 隆

東山・葵・錦合同例会卓話(2022.05.24)

1. 万葉集が作られた奈良時代は、現在から1300年ほど前になります。都が京都（平安京）に移る平安時代の前で、奈良の大仏で有名な奈良地方に都があった時代です。
2. 日本人は、残念ながら文字を持っていませんでした。記録する文字に困った日本人は、憧れの中国からの漢字を借りることにしたのです。

日本は使節団を随や次の時代の唐に派遣（遣唐使）し、その文化（天文学・土工学・医学・法律・宗教・文学など）を享受していた時代でした。漢字利用の具体例です。

『古事記』日本式漢文の原文（和銅五712年完成）

天地初発之時、於高天原成神名、天之御中主神。[訓高下天云阿麻。下効此。]  
あめつち あらは たかあまのはら な あめのみなかぬしのかみ  
 （天地初めて発れし時、高天原に成りし神の名は、天之御中主神 [高の下の天を訓みてアマと云ふ。下は此れに効へ。]

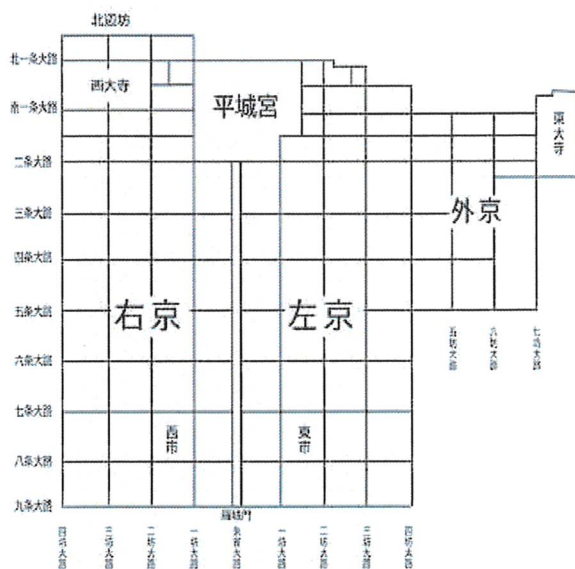
次、高御産巢日神。次、神産巢日神。此三柱神者、並独神成坐而、隱身也。

『日本書紀』純粹漢文の原文（養老四720年完成）

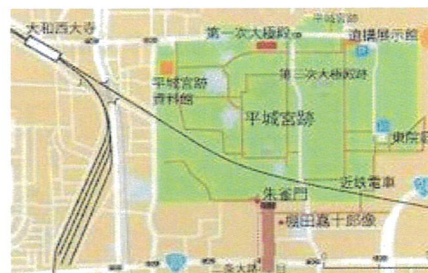
古天地未剖、陰陽不分、渾沌如鷄子、溟滓滓而含牙。及其清陽者、薄靡而為天、重濁者、淹滯而為地、精妙之合搏易、重濁之凝竭難。故天先成而地後定。然後、神聖生其中焉。

※当時の人々は、倭（やまと）言葉の正確な表記に苦労し、一字一音の仮名（万葉仮名による表記を生み出しています。

【平城京（奈良の都、710年に完成）】



【平城宮 都の北に配置された】



(東西約5キロ。後期には10万人が居住する。) 平城宮内の大極殿（宣命などを官人に告げる）